

自治医大卒業生活動報告

私の義務年限と総合診療

～後輩達に伝えたいこと～

新潟県 37期卒 坪野 俊介

自己紹介



坪野 俊介 (新潟 37期)

総合診療専門医(新潟県初)

内科認定医

学生時代は、、、

勉強の成績は真ん中くらい

ボートに命かけてました→東医体優勝

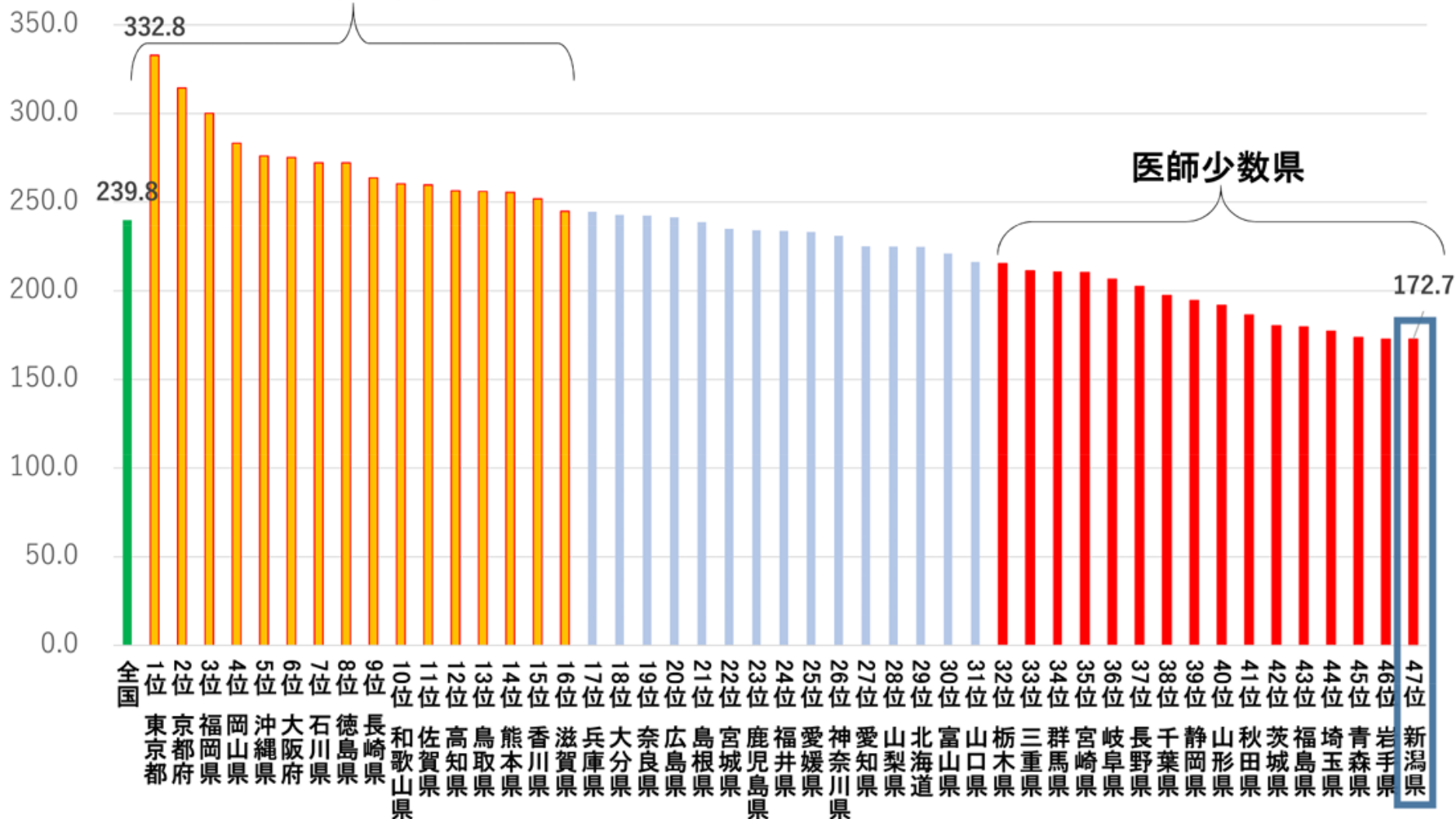


新潟県は医師不足

医師偏在指標

医師多数県

医師少数県



新潟県の卒業生の派遣医療機関

3次救急病院：500～600床



新潟大学病院、中央病院、新発田病院
初期研修や後期研修でお世話になる

中規模病院：100～200床

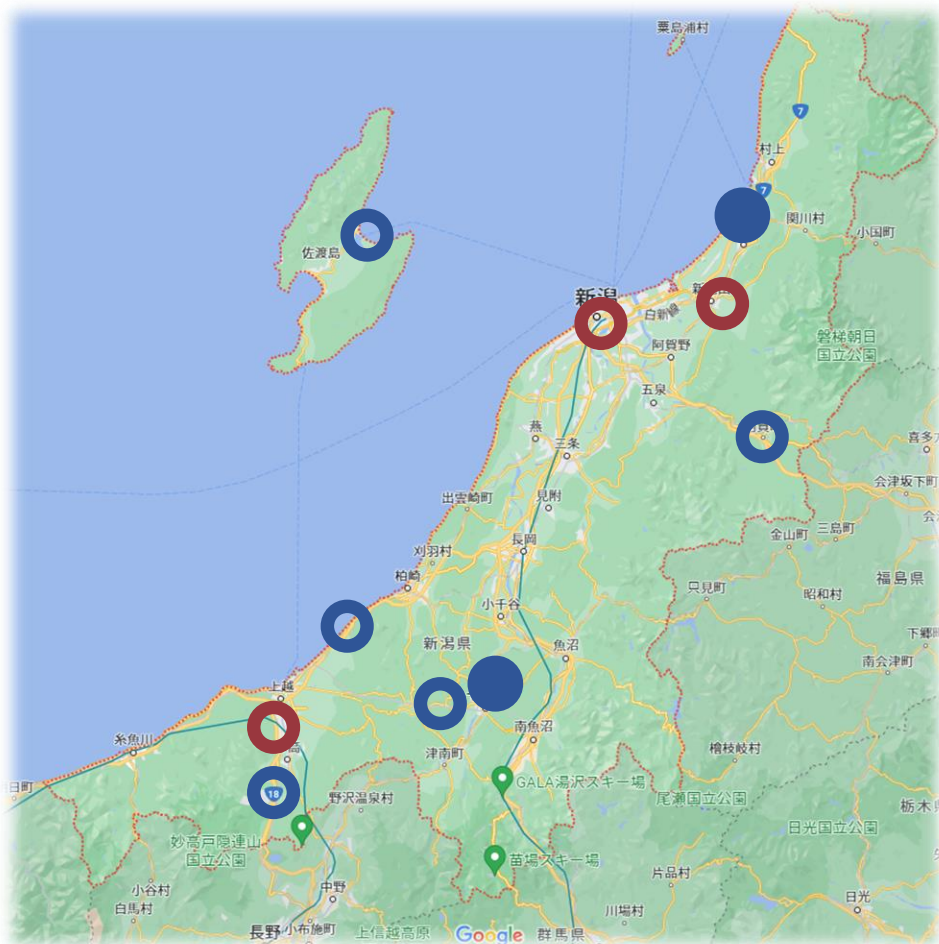


坂町病院、十日町病院
義務後半で勤務する可能性あり

小規模病院：50床前後



津川病院、柿崎病院、妙高病院、松代病院
常勤はほぼ内科のみ



新潟県は診療所勤務はなく、小～中規模病院での勤務が基本です
離島(佐渡島)はありますが、大きいので離島という感じはありません

新潟県の義務年限

<配置前研修>

初期研修病院で引き続き、地域に出る前に必要なスキルを習得する

初期研修
2年間

配置
前
研修

地域派遣
2年間
小規模病院

後
期
研
修

地域派遣
3年間
小\or中規模病院

<後期研修>

自分の選択した専門科の研修を基幹病院で行う
6～9年目のどこかで1年間

私の義務年限



新潟
大学
病院

県立
中央
病院

県立
中央
病院

県立柿崎病院

県立
中央
病院

県立津川病院



医局には**属さず** (普通は新潟大学の医局に入ることが多い)

義務途中で始まった新専門医制度で**総合診療専門研修**を開始

なぜ総合診療？

専門医がいないので
別の病院をあたってください

それはかかりつけで相談してね

当科的には
問題ありません

なぜ総合診療？

これらの言葉が飛び交う現状の専門分化した医療に**疑問**

専門を決めることが専門以外診なくてよいという**免罪符**になっていないか？

専門外の分野への**興味関心、勉強意欲の妨げ**になっていないか？

患者は〇〇の専門医としてではなく、**一人の医者**として、あなたを頼る



現状の専門医制度にメリットを感じず
専門に縛られない、総合診療に興味

色々な総合診療の形

義務年限中に必要とされる能力はコレ！！

地域病院

内科単科+aの病院

内科疾患以外にも整形外科、
皮膚科、泌尿器科疾患などへの
対応力も必要

限られた医療設備の中でも適切
な診断を下し、必要に応じて専
門医につなぐ能力が必要

診療所

診療所

一般的な慢性疾患の管理に加え、予
防医療や訪問診療、施設嘱託医、学
校医なども含め、診療のフィールドは広い

開業する場合は診療所経営のノウハウ
も必要

基幹病院

不明熱や診断困難症例など
診断のスペシャリスト

内科疾患以外の対応は少ない？

教育機関でもあり、学生や研
修医の指導も

地域病院

基幹病院

私は **地域病院**の**総合診療医**として、柿崎病院 と 津川病院

基幹病院の**総合診療医**として、県立中央病院 で勤務しました

地域病院の総合診療医

病床数：50床程度 医師：4-5名 内科+α(非常勤)



柿崎病院



津川病院

患者と地域をトータル的に**マネジメント**するスペシャリスト

内科が中心ですが、医療圏に他の科の専門医がいないことも多く、内科疾患以外(特に皮膚科、泌尿器科、整形外科など)の対応もある程度できる必要があります。

検査も全部自分達で 胃カメラ、大腸カメラ、エコー

検査をオーダーするだけでなく、検査行い、結果を解釈するのも自分です。
地域ではそれらの技術と知識も求められます。

外来、病棟、**訪問診療**

地域医療といっても色々な活躍の場がありますが
その中でも特に訪問診療は重要な位置を占めます。

チーム医療で**ON-OFF**はつきり

当直以外で夜間休日に呼び出されることはありません。

育児中の女性医師も男性医師とチームを組み、病棟診療に従事しています。



基幹病院の総合診療医



病床数：503床 医師：約100名(総合内科は3名)

県立中央病院

不明熱や診断困難症例に対応する**診断**のスペシャリスト

わからないとは言えない難しさもありますが、その医療圏の最後の砦として、知恵を出し合い頑張っています。

後進の育成も大事な仕事

臨床研修指定病院でもあり、初期研修医や学生の教育にも力を入れています。

定期的に勉強会や症例検討会を行っています。

それらの技術と知識が必要です。



総合診療医の魅力

自分で何でも診れることは自分が思っている以上に楽

高齢者は多疾患が併存していることがほとんどです。

各疾患をそれぞれの科にコンサルトしていたら患者も自分も大変です。

何でも自分で診るのは大変なイメージがあるかもしれませんが、ある程度実力がついてくると、むしろ自分で一元的に管理した方が楽だったりします。

その楽は自分だけの楽ではなく、患者や看護師などのスタッフも、誰にまず相談すれば良いか明確になるので、みんなが楽になります。



総合診療医の魅力

多様な診療の場で勤務できる

今後、医師人生は40年では済まなくなるでしょう。

一生同じ職場で働き続けるということは少なくなるかもしれません。

基幹病院や地域病院、診療所など、多様な場で**総合診療医**を**必要**としています。

総合診療医は**多様な場**で活躍できるようにトレーニングを受けています。

多様な場で働くことができる**能力**があるということは、強みでもあり、長い**医師人生**を**楽しむ**上で必要な能力になるのではないのでしょうか。



後輩達に伝えたいこと①

学生時代にやるべきこと

やりたいことを**全力**でやってみてください。私はボート部の活動に学生時代の殆どの時間を費やしましたが、後悔はなく、むしろ満足しています。

強いて勉強のことを挙げるなら、学生時代の**授業**や**実習**は、そのどれもがとても**貴重な機会**であったと、医師になってから実感しています。

将来地域で役に立つかも？と思って色々なことに興味を持って勉強してみてください。学生時代に勉強していることが役に立つイメージがわからない人は、是非、地域実習で**先輩の働く姿**を見てイメージしてみてください。



後輩達に伝えたいこと②

義務年限を楽しんで

田舎は不便だし、何でも診れなきゃいけないし、地域で働くことに対して**思い悩む**こともあるかもしれません。

それでも**全力**で**地域医療**に取り組んでみてください。

その地域の人達と過ごした9年間は間違いなくあなたの**人生の宝**になるでしょう。

長い人生のたった9年間です。私はあっという間でした。**自治医大**を卒業したからこそ経験できた貴重な機会。是非楽しんで。

皆様とどこかで一緒に働ける日を楽しみにしています